

MOT アニュアル 2024 こうふくのしま

MOT ANNUAL 2024 on the imagined terrain

2024年12月14日(土) — 2025年3月30日(日)

東京都現代美術館では、現代美術から新たな側面を引き出すグループ展「MOT アニュアル」を継続して開催しています。第20回を数える本展では、**清水裕貴、川田知志、白井良平、庄司朝美**の作家4名を、その最新作とともに紹介します。

近年、「今ここに立っている」という身体感覚を持つことがますます困難になりつつあります。通信技術や交通手段の発達により、日々膨大な情報に否応なくさらされ、どこへでも移動しやすくなったことで、その傾向はさらに顕著になっています。こうしたなかで、自分自身の足元が何によって形をなし、どこにつながっているのかをあらためて問う行為は、私たちの身体が置かれる場への気づきを引き出し、進むべき方向を探るひとつの手だてとなるでしょう。

副題にある「しま」は、4名の作家が拠点を置く「日本」の地理的条件に対する再定義を含んでいます。この太平洋北西部の島々を、他の陸地から切り離されて海に浮かぶ「閉じられた地形」ではなく、地殻変動を経て海上に現れた地表の起伏であり、海底では他の大陸や島と地続きに連なる「開かれた地形」として捉え直すことは、水面下での見えざるつながり確かめるための別の視座を提示します。それは、従来の枠組みや境界を超え、あらゆるものが複雑に相互作用する世界を見つめ、深く思いをめぐらせることでもあるのです。

本展の作家の仕事もまた、自身の足元を起点にしながら、より大きな文脈や関係へと開かれています。彼ら／彼女らは多様なアプローチを通じて、現実の世界を視覚的に置き換え、描き出すことにより、身のまわりや自己の多義性や重層性に対峙します。これらの作品は、作者の解釈や意図を超え、見る者がそれぞれの視点や感覚、経験を通して主体的に意味を見出すための装置として働き、それぞれに異なる見かたや感じかたを促します。

日本の社会は、戦後その大半を失ったところから再建を始め、経済発展を根拠とする幸福と繁栄への道を歩み、1990年代以降は低迷と停滞が続いていると言われます。しかしながら、こうしたリアな語りにおいて、複数の要因が絡み合う対立や葛藤は、しばしば解消されないまま見落されてきました。そこで本展では、身近の汲みつくせない出来事や状況を個々の視点から見直し、形を与えようとする作家たちとともに、もつれ合う世界の複雑さをいかに引き受けるのかという問いに向き合います。

*「MOT アニュアル」は、1999年の第1回展以来、異なる文化や表現領域が混合する空間としての東京に拠点を置く東京都現代美術館ならではの視点から、日本の若手作家の作品を中心に、現代美術の一側面を切り取り、問いかけや議論のはじまりを引き出すグループ展です。

出品作家 (展示構成順)

清水 裕貴 / 川田 知志 / 白井 良平 / 庄司 朝美

展覧会のみどころ

「MOT アニュアル 2024」では、今後国内外でさらなる活躍が期待される4名の作家の作品を、本展のための新作を含めて展示します。**清水裕貴**は、写真とテキストで構成されたインスタレーションから、中国の大連と東京湾岸を舞台にした物語を編みます。**川田知志**は、戦後の日本社会を特徴づける都市部と郊外の風景を主題として、全長約50メートルの壁画を描きます。**白井良平**は、日常の些細なものや状況を再現したインスタレーションを通じて、見る者に新たな視点を提示します。**庄司朝美**は、描くこと／見ることの身体性を強く意識させる絵画により、作品内外の世界を結びつけようと試みます。本展は、これらの作家たちが現在進行形で取り組む創造的な実践に触れていただける貴重な機会です。

作家プロフィール

清水 裕貴 (しみず・ゆき)

1984年千葉生まれ、同地在住。2007年武蔵野美術大学映像学科卒業。清水は、水にまつわる土地の歴史や伝承のリーサーチをもとに、写真とテキストを織り合わせて架空の物語を創作している。近年は、海水や藻によってネガを劣化させる手法を用いたり、テキストを読み上げる音声を取り入れたりすることで、より重層的な物語の構成を試みている。

近年の主な個展に「浮上」(PGI、東京、2024)、「眠れば潮」(PURPLE、京都、2023)など。主なグループ展に「とある美術館の夏休み」(千葉市美術館、千葉、2022)、「千葉ゆかりの作家展 百年硝子の海」(千葉市民ギャラリー・いなげ/旧神谷伝兵衛稲毛別荘、千葉、2021)。主な受賞歴に2011年1_Wall グランプリ、2016年三木淳賞。2018年新潮社 R18 文学賞大賞を受賞し、近年は小説も発表する。



01 清水裕貴《大連の海岸》2024年



02 清水裕貴《愛新覚羅溥儀(仮)》2024年

川田 知志 (かわた・さとし)

1987年大阪生まれ、京丹後在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了。川田は、伝統的なフレスコ技法を軸とする壁画の制作・解体・移設を通じて、日本社会の基盤を支える構造や仕組みとその変化を捉えようとする。近年は、陶磁や珪瑯といった素材を用いた壁画にも取り組み、公共の建築物と壁画の関係性にも関心を寄せている。

近年の主な個展に「川田知志：築土構木」(京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル、京都、2024)、「彼方からの手紙」(アートコートギャラリー、大阪、2022)。主なグループ展に「味 / 処」(神奈川県民ホールギャラリー、神奈川、2023)、「ホモ・ファアベルの断片一人とものづくりの未来」(愛知県陶磁美術館、愛知、2022)。主な受賞歴に、2019年平成30年度京都市芸術新人賞、2020年 TOKYO MIDTOWN AWARD 2020 準グランプリ。

*1月下旬まで、展示室での壁画制作を予定しています。



03 川田知志《築土構木》(部分) 2024年 京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル「川田知志：築土構木」展示風景 撮影：来田猛



04 川田知志《ノースайд》(部分) 2017年 撮影：怡土鉄夫

作家プロフィール

臼井 良平 (うすい・りょうへい)

1983年静岡生まれ、東京在住。臼井は2011年頃より、身近にあるプラスチック容器などをガラスの彫刻に置き換え、既存のものと一緒に構成するシリーズ「PET (Portrait of Encountered Things)」を発表している。些細な日常を切り取り、異なる空間で再現した作品は、普段は意識することのない出来事や状況に目を向ける契機となる。

近年の主な個展に「路上の静物」(無人島プロダクション、東京、2022)、「Solid, State, Survivor」(無人島プロダクション、東京、2020)。主なグループ展に、「驚異の細密表現展 江戸・明治の工芸から現代アートまで」(横須賀美術館、神奈川、2024)、「小村雪岱スタイル 江戸の粋から東京モダンへ」(岐阜県現代陶芸美術館、岐阜、ほか巡回、2019-21)。



05 臼井良平《Isle》2024年
Courtesy of the Artist and MUJIN-TO Production ©Ryohei Usui 撮影：宮島径



06 臼井良平《Fence》(部分) 2020年
Courtesy of the Artist and MUJIN-TO Production ©Ryohei Usui 撮影：森田兼次

庄司 朝美 (しょうじ・あさみ)

1988年福島生まれ、東京在住。大阪、青森、東京にて育つ。2012年多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻版画研究領域修了。庄司は、半透明のアクリル板やカンヴァスを支持体に、絵の具を置いては拭き取るという行為を重ねて絵画を制作する。絵筆を介して身体の境界を拡張するように生み出されるというイメージの世界では、裸の人物、亡霊、鳥や動物といった様々な存在が交錯し合っている。

近年の主な個展に「10月、から騒ぎ」(Semiose、パリ、2024)、「よそ者の話」(LINSEEDより Independent Art Fair、ニューヨーク、2024)、「足のない歩行」(gallery21yo-j、東京、2023)。主なグループ展に「Body, Love, Gender」(Gana Art Center、ソウル、2023)、「顕神の夢」(川崎市岡本太郎美術館、神奈川、ほか巡回、2023-24)。主な受賞歴に2015年トーキョーワンダーウォール賞、2019年FACE2019グランプリ。2020年令和2年度五島記念文化賞美術新人賞を受賞し、2022年にジョージアにて1年間在外研修を行う。



07 庄司朝美《248.13》2024年



08 庄司朝美「足のない歩行」展示風景 (gallery21yo-j、2023年)
撮影：加藤健

関連プログラム

会期中にアーティストトーク、手話通訳つきのプログラムなどの開催を予定しています。参加方法・詳細は当館ウェブサイトで順次公開いたします。

基本情報

展覧会名	MOT アニュアル 2024 こうふくのしま
会期	2024年12月14日(土) - 2025年3月30日(日)
休館日	月曜日(1月13日、2月24日は開館)、12月28日~1月1日、1月14日、2月25日
開館時間	10:00-18:00(展示室入場は閉館の30分前まで)
観覧料	一般1,300円/大学生・専門学校生・65歳以上900円/中高生500円/小学生以下無料
会場	東京都現代美術館 企画展示室3F
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
問合せ	050-5541-8600(ハローダイヤル)
企画	事業企画課 企画係 楠本 愛

同時開催

企画展 「坂本龍一 | 音を視る 時を聴く」 企画展示室 1F/B2F
コレクション展 「MOT コレクション」 コレクション展示室

広報図版の貸出について

広報用図版として8点をご用意しております。貸出をご希望の方は、下記の貸出条件をご確認の上、必要事項とあわせて図版番号をメール (mot-pr@mot-art.jp) にてご連絡ください。

必要事項

御社名/ご担当者名/貴媒体名(ジャンル)/発売・放送予定日

貸出条件

- 画像には作品情報(作家名・作品名・制作年・コピーライト等)を併記してください。
- 画像のトリミング、文字載せ、編集はご遠慮ください。
- 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。また、記事の掲載後には掲載誌(紙)、ウェブサイトのURL、DVD、CD等をお送りください。
- 画像データの二次使用はお断りしております。使用後はかならずデータを削除してください。

広報図版 作品クレジット一覧

- 01 清水裕貴《大連の海岸》2024年
- 02 清水裕貴《愛新覚羅溥儀仮寓》2024年
- 03 川田知志《築土構木》(部分) 2024年 京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル「川田知志:築土構木」
展示風景 撮影:来田猛
- 04 川田知志《ノースайд》(部分) 2017年 撮影:怡土鉄夫
- 05 臼井良平《Isle》2024年 Courtesy of the Artist and MUJIN-TO Production ©Ryohei Usui 撮影:宮島径
- 06 臼井良平《Fence》(部分) 2020年 Courtesy of the Artist and MUJIN-TO Production ©Ryohei Usui
撮影:森田兼次
- 07 庄司朝美《24.8.13》2024年
- 08 庄司朝美「足のない歩行」 展示風景 (gallery21yo-j, 2023年) 撮影:加藤健

お問い合わせ:東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・稲葉・内堀・野川
TEL:03-5245-1134(直通)/FAX:03-5245-1141
E-MAIL:mot-pr@mot-art.jp URL:https://www.mot-art-museum.jp

*開催内容は都合により変更になる場合がございます。ご了承ください。